

指定管理施設事業評価票(平成29年度分)

1. 施設所管課 健康福祉 部 高齢福祉 課

2. 指定管理施設概要

施設名	名称	日光市足尾保健・高齢者生活福祉センター「銅やまなみ館」			
	所在地	日光市足尾町赤沢3－23			
指定管理者	名称	社会福祉法人 日光市社会福祉協議会			
	代表者名	会長 高橋 務			
	住所	日光市今市511－1			
指定期間		平成27年4月1日	～	平成32年3月31日	5年間
選定方法		公募	評価実施年	5年間のうち3年目	
施設設置目的		市民の健康づくりと高齢者の福祉の向上を図るため。			
主な実施事業		・居住事業 ・施設の維持管理			

3. 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	利用人数の増(延べ人数)	人	6,000	7,381	6,000	5,063	7,620	5,809				
b	利用者満足度	%	80	85	80	85	80	74				
c	前年度経費に対する経費低減	%	5%減	22%減	2%減	12.5%減	2%減	4.1%増				
d	前年度収入に対する収入増加	%	20%増	8%減	5%増	20.9%減	5%増	10%減				
e	職員研修実施	—	実施	実施	1人1回参加	実施	1人1回参加	実施				
f	避難訓練の実施	回	実施	1	実施	1	実施	1				

4. 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:円)

区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
収入計 A		39,408,580	20,618,462	18,893,460	0	0
	指定管理料	23,150,000	19,447,000	17,847,000		
	利用料収入 C	16,138,580	1,171,462	1,046,460		
	自主事業収入	0	0	0		
	その他	120,000	0	0		
支出計 B		39,350,997	18,773,510	19,246,428	0	0
	指定事業費	39,350,997	18,773,510	19,246,428		
	内人件費 D	26,298,219	7,963,367	7,990,500		
	内外部委託費 E	1,970,414	2,002,314	2,021,135		
	自主事業費	0	0	0		
事業収支 A-B		57,583	1,844,952	-352,968	0	0
人件費率 D/B		66.83%	42.42%	41.52%	#DIV/0!	#DIV/0!
外部委託比率 E/B		5.01%	10.67%	10.50%	#DIV/0!	#DIV/0!

※着色セルは、自動計算としている。

補足説明	H28年度通所介護事業廃止

サービス改善の状況

通所介護事業廃止後の空きスペース(談話室・フリールーム)について、地域住民の情報交換、交流の場や、サークル活動等に解放し、新たな利用者の確保が図れた。

5. 管理運営状況

評価項目		評価基準	指定管理者 自己評価	施設所管課 評価	
①サービスの 履行の 確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	B	B	
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B	
		事業計画に即し、計画的に研修等を年1回実施している。	B	B	
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	B	B	
		外部委託業者に対して、協定書等を遵守させている。	B	B	
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	B	B	
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令を遵守している。	B	B	
		個人情報の漏えい、滅失等の事故防止策に対する研修を年1回行っている。	B	B	
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B	
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B	
②サービスの 質の評価	施設管理	点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B	
		協定書に従い、各報告書等を、市に提出している。	B	B	
	利用者対応	市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	B	B	
		事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B	
③安定性	事業運営	緊急時のマニュアルが整備され、年1回訓練を行っている。	B	B	
		避難経路が適切に確保されている。	B	B	
	総括	「業務の実施体制」に関する評価【17項目】	B	B	
	所見 (成果・課題等)	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	B	B
			事故防止及び安全確保のための研修を年1回行っている。	B	B
		利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	B
			利用者に対して、設備、備品等を適切に提供している。	A	B
		事業運営	言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	B
			事業計画に即し、受託事業を実施している。	B	B
		維持管理	施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	B
事業内容がサービス水準の向上に寄与している。			B	B	
環境配慮		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理等を適切に行っている。	A	B	
広報活動		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	B	B	
前半段階評価 ※5段階評価	備品管理	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	B	
		協定書に従い、適切に修繕を行っている。	B	B	
	苦情等対応	環境配慮率選考計画取組点検表において、(1)が取組項目の2/3に達している。	B	B	
		事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B	
	利用者アンケート	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B	
		要望、苦情等を整理し、市に報告している。	B	B	
	利用状況	利用者アンケート調査を実施し、その結果が妥当である。	B	B	
		利用実績は、目標水準である。	B	C	
	総括	「業務の内容・水準」に関する評価【18項目】	B	B	
	総合評価 ※3段階評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	B	B
予算執行		収支予算書の範囲内で適正に予算執行している。	B	B	
経費縮減		経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B	
収支状況		収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B	
総括		「経費の収支等」に関する評価【4項目】	B	B	
所見 (成果・課題等)	(指定管理者自己評価)				
	協定書や事業計画書に基づき、概ね良好に施設の管理運営が図れた。				
	特にサービスの質や利用者対応面については、職員一人ひとりが同じ認識の下、施設利用に際しての手続きや設備、備品等の貸出合理化簡素化や丁寧な情報提供を行うことで利用者の負担軽減と利便性及び再利用率の向上につながっている。				
	(所管課評価)				
	居住事業利用者の減等により利用者数が目標に達していないが、従来からの施設貸出しに加えて、談話室・フリールールの開放により、地域住民の交流の場を提供するなど、地域福祉の拠点としての機能を果たしている。また、利用者満足度については、目標値に達していないが、「悪い」「非常に悪い」等の回答はなく、適切な水準によって運営されている。				

※評価区分

評価基準	A(優良) = 協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。	総合評価	A(優良) = 自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B(良好) = 協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。		B(良好) = A、C以外
	C(要改善) = 一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。		C(要改善) = 自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。
※施設所管課は、指定管理者に対するモニタリングや事業報告書の内容等を踏まえ、評価します。			
※数値が記載されているものに関しては、数値目標達成がB評価となります。			
総括評価	A(優良) = 評価項目のうち、A判定が80%以上		
	B(良好) = A、C以外		
	C(要改善) = 評価項目のうち、C判定が20%以上		